

高品質かぶせ茶の普及に向けた現地実証

農業技術振興センター企画情報部

【普及活動のねらい・対象】

茶の販売価格が低迷する中、品質向上と有利販売を目的に「かぶせ茶」の生産が行われています。「かぶせ茶」は、茶園に被覆資材を被せ太陽光を遮ることで、茶葉が濃緑色となり、茶葉に含まれる旨味成分が高まり、煎茶より高品質な茶となります。



しかし、「かぶせ茶」の栽培基準が明確でないため、流通量の増加とともに、煎茶より評価の低い「かぶせ茶」も出回るようになり、被覆に要する資材費や労賃が賄えない事例も見られるようになりました。

このことから、試験研究の成果をもとに、茶業経営においてメリットのある高品質、高価格な「かぶせ茶」を安定的に生産できるよう、現地茶園において実証試験を行いました。

【普及活動の成果】

実証試験は、甲賀市土山町の茶園（面積：38a）で行いました。

被覆は、一番茶芽が1.8葉期（指導時期：1.5～2葉期）に実施（作業時間90分/10a.3名）し、被覆期間（指導期間：14～20日）は、茶芽の生育状況を考慮し16日間としました。

被覆資材の取り外し（作業時間90分/10a.2名）は、遮光により向上した葉色や、全窒素・遊離アミノ酸等の茶葉の旨味成分の低下を防ぐため摘採直前に実施しました。摘採した茶葉の製造は、「かぶせ茶」の特徴を活かし味も出やすいよう、やや蒸しを強く（茶葉の状態により蒸しは調整が必要）行いました。

最終の「かぶせ茶」収量は65kg/10aで、これを共同販売会（全農滋賀主催）で茶商業者の評価を受けたところ、3,545円/kg（販売会当日の平均価格：煎茶2,491円/kg、かぶせ茶2,930円/kg）の価格がつかしました。また、茶の旨味を示す全窒素含有率も6.6%と上級かぶせ茶の基準（6%以上）を大きく上回りました。

「かぶせ茶」は、「煎茶」栽培と比較し、資材費150,000円/10a（耐用年数8年）、資材の被覆、取り外しに係る人件費を必要とし、経費として20,625円/10aが上乗せされます。しかし、今回の実証試験では、被覆に要する経費を差し引いてもメリットのある、高品質、高価格な「かぶせ茶」を生産することができました。

今回の現地実証試験や調査研究の成果を基に、茶担当普及指導員の間で「かぶせ茶」の栽培・製造基準を作成しました。次年度は、この基準に基づき「かぶせ茶」の品質向上と栽培面積の拡大について支援していきたいと考えています。